

切磋琢磨Ⅲ

R2.7.31 第16号

1学期が終了しました。短い夏休みですが、有意義にお過ごしください。

1学期終業式 「感謝の心、大切に」

マスク着用で熱中症が心配される状況下、終業式を朝の活動の時間にテレビ放送にて行いました。以下は、子どもたちに話した内容です。

【コロナ対応で学習したこと】

①あたりまえだったことが、あたりまえでなくなった

学校に登校することがあたりまえだったのに、学校に通えないという実体験。学校で勉強や運動すること、友だちと遊ぶこと、楽しく語らいながら給食を食べることなど、今まで普通に行ってきたことができなくなった1学期でした。だからこそ、「あたりまえ」である生活の幸せを知った貴重な時間でもありました。

でもし、この「あたりまえ」がどんどん世の中からなくなったらどうなるでしょう。「あたりまえ」と言う言葉は「当然のこと」という意味合いをもっています。

例えば、食事。ご飯を食べるには、食料がいります。それらを作っている人、それを運ぶ人、売る人やお店がなければ食料が手にはいりません。食事を作ってくれる人がいなければおいしい食事がとれません。電気・水道・ガス等が家で使えるのも同じです。だれかのおかげで「あたりまえ」があるのです。

②感謝する「ありがとう」の気持ちを大切に

その「あたりまえ」に感謝する心を大切にしてほしいのです。「ありがとう」という言葉は「有り難い＝めったにない」という意味から来ています。めったにないことに出会うから「ありがとう」なのです。私たちは自分ひとりでは生きていけない。何かしら、人の力に支えられて今まで生きています。だからこそ、支えられていることに感謝して生活をしていきたいものです。成功をおさめた人が、インタビューで「皆さんのおかげで。感謝の気持ちでいっぱいです」とメッセージを送っている場面をよく見ます。一人で成しえた成功でないことを知っているからです。

③2週間の夏休み、家族に「ありがとう」の気持ちで

皆さんがこうやって学校に来られているのも、毎日ご飯を食べられているのも、家族の方たちが支えてくれているからです。

ですから、「あたりまえ」を「ありがとう」の気持ちに変えてこの2週間の夏休みを送ってください。「ありがとう」の言葉だけではなく、それを家族のためにお手伝いをするなど、「ありがとうがえし」ができると、さらにいいですね。

今年の夏休みは短いですが、その分ぎゅっとまとめて、自分のできることを見つけて、どんどん挑戦する休みにしましょう。

個人懇談会にご参加いただき、ありがとうございました

暑い中、ご来校いただきました。担任と有意義な懇談ができましたでしょうか？この2カ月間、子どもたちの頑張りや学習の様子をお伝えさせていただきました。担任とつながっていただき、お子さんの成長のために、共通理解をすることが必要です。これからも、心配なことや伝えたいことがありましたら、遠慮なくご連絡ください。

また、アンケートにてご意見をいただき、併せてお礼申し上げます。アンケートのご意見をもとに、検討できるものや今後見直しをもって計画を進めていくものなどを精査していきます。

今はコロナの影響で、制限をした活動になってしまっています。アンケートには、保護者の方々の思いが伝わってくるものもいくつかありました。「With コロナ」の時代です。なんとか工夫して行える活動を増やしていけたらという思いは、学校職員も同じです。しかし現在、愛知県の感染者数が日に日に高くなっており、大変心配な状況です。前回のように、突然の休校だけは避けたいものです。一人一人が感染防止のために努力することが大切です。

授業の一コマ 3年「造形あそび」

「造形あそび」とは、遊びながら素材のよさを体感する授業です。今回は「空気」を素材として、空気の集め方や溜め方を体験しながら、日ごろは感じることの少ない「空気」の感触を楽しみました。色ビニールに空気を集め、それらをどうやって重ねるかなど試行錯誤しながら取り組むことは、まさに「考える子」の育成にもつながっていくことでしょう。楽しみながら学ぶ素敵な授業です。



2学期から行事等を再開する予定でしたが、現在の感染状況から再検討が必要となることが予想されます。8月上旬までのコロナ感染状況や行政からの通知をもとに、2学期はじめに、今後の行事予定をお知らせする予定です。